

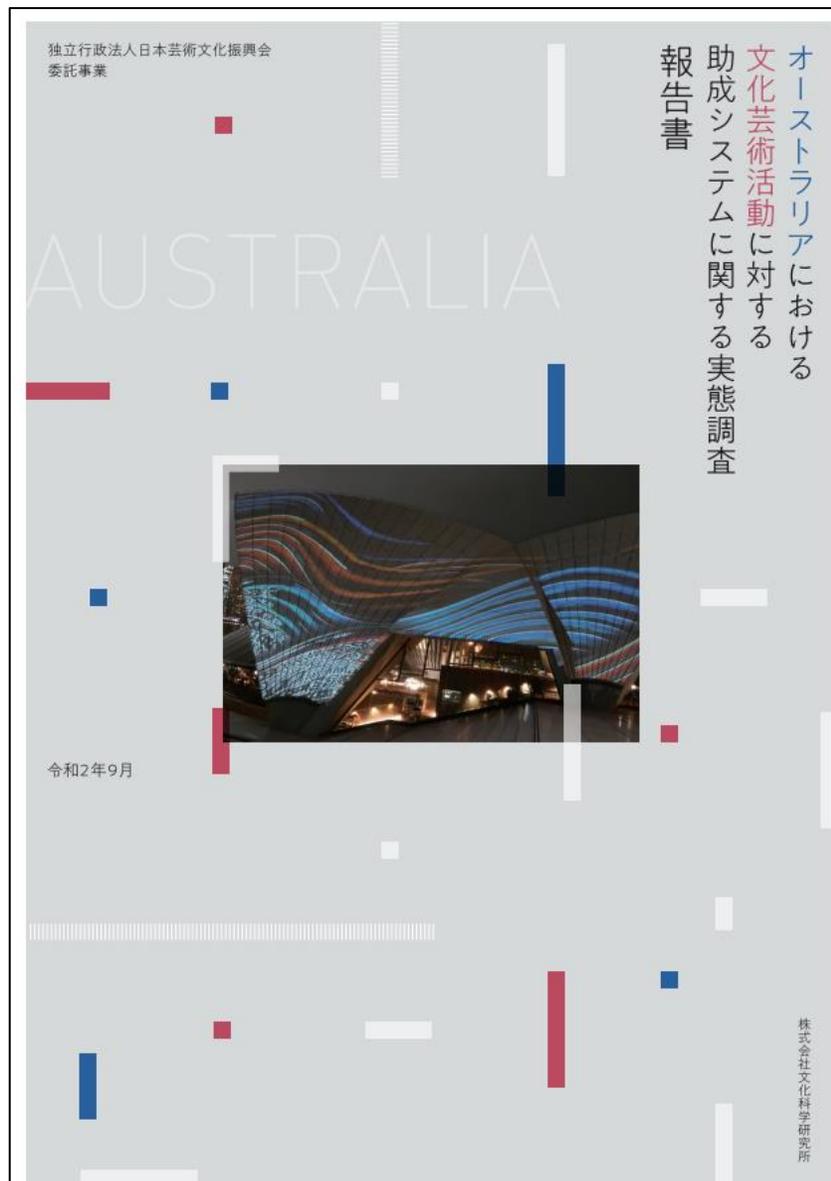
文化経済部会
文化芸術カウンシルWG勉強会
「アーツカウンシルとは」
2022年12月8日

石田麻子

【ACEおよびCS】



【オーストラリア・カウンシル】



【各組織の公式文書（日本語全訳）】

〈英国〉

◎DCMS: *Culture White Paper*
(2016年)

[ACE 10年戦略]

◎*Great Arts and Culture for Everyone* (2013年～2020年)
◎*Let's Create!* (2020年～2030年)

[CS 10年戦略]

◎*Unlocking Potential, Embracing Ambition* (2014年～2024年)

〈オーストラリア〉

[AC コーポレートプラン]

◎*Creativity Connects Us*
(2019年～2023年) ほか

〈カナダ〉

CCA 現在進行中

アーツカウンシルとは① 英国の事例

➤ 英国におけるアーツカウンシル制度整備の経緯

1940年 音楽芸術振興協会設立 (CEMA)

1942年 ジョン・メイナード・ケインズがCEMAの議長に就任

1946年 アーツカウンシル・グレート・ブリテン設立 (ACGB)

1994年 イングランド、スコットランド、ウェールズに分割

国営宝くじからの資金配分開始

1995年 北アイルランドに創設

2010年 ACE10年戦略発表 (2013年改訂版発表)

2020年 ACE新10年戦略発表

➤ 芸術組織における公的助成、入場料、事業、ファンドレイジングの収入割合が拮抗大陸ヨーロッパやアメリカなどの収入構造とは異なる状況

アーツカウンシルとは② 英国での役割

◎芸術文化活動や芸術文化団体などを育成する機関である

- 公的資金の**戦略的投資**をおこなう役割
- 創造活動に適した組織づくりや個人の活動を支援する役割（→運営助成）
- 芸術文化助成の意義を社会に対して説明する役割（→納税者に対する発信）

◎芸術文化助成の考え方を提示する機関である

- **戦略的投資**としての芸術文化助成
- **戦略目標**の提示と助成事業への反映→ **10年戦略**
- 「**アームズ・レングスの原則**」の実現
- 芸術文化団体への**継続的**な助成制度→ **理由**の提示
- **レジリエンス**の確保：急激な社会変化などへの対応→ コロナ禍の**緊急支援**
- **芸術文化振興を担う専門家**（RM、POなど）の集合体→ **公的資金**への意識

◆ 課題は： 組織構築二人の確保、資金確保

アーツカウンシルとは③～日本との比較から考える

- 日本で国のアーツカウンシルが制度導入されて10年以上経過
 - 2011年にPDPO配置@独立行政法人 日本芸術文化振興会 基金部
- ✓ 国立劇場等を管理運営する法人の1部署としての位置づけ
- ✓ 事業助成（英国の運営助成とは異なる）
- ✓ 助成活動のモニタリング、審査時のアドバイス機能など、助成金の配分関連の活動が主体
- 公的資金を芸術文化に配分する意義や効果の説明が必要。
- 「芸術文化振興機関」として：助成分野の拡大、芸術文化振興を担う機能を集約、政策提言の機能が必要。
- 政策官庁と執行機関の連携と役割分担の明確化。公的資金配分の機能をもった組織強化を。
- 近い将来起きること。
 - ✓ 文化庁京都移転、国立劇場の建て替えなど

主要参考文献（一部再掲）

- イングランド及びスコットランドにおける文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査
- オーストラリアにおける文化芸術活動に対する助成システムに関する実態調査
- 石田麻子『芸術文化助成の考え方』美学出版、2021年